「ブラチスラバ
世界絵本原画展」
出品作家による
選書企画

あのとき読んだ、あの本が

vol.2

あのとき読んだ、
あの本が

vol.02

The books
I read at that time

「ブラチスラバ世界絵本原画展」の出品作家のうち9名の作家に2冊の本を選んでいただき、また、コメントもお寄せいただきました。選書のテーマは、子どものころから学生のころに読み、いまも影響を受けていると感じる本。これらの本と出会い、あの作品や、あの作品が生まれたのかもしれません。本がもたらすさまざまな刺激や、幼いころからつらなる作家の背景を、選書からお楽しみください。

＊掲載している書誌情報は、展示中の本の情報です。同じ作品でも、実際に作家が読んだものとは版が異なる場合があります。

参加作家 Artists ……飯野和好、植田真、きくちちき、舘野鴻、中野真典、降矢なな、ミロコマチコ、田島征彦、しおたにまみこ

期間 Dates ……2022年11月12日～12月25日

場所 Venue ……千葉市美術館4階図書室 (びじゅつライブラリー)

主催 Organizer ……千葉市美術館

01

飯野和好
Iino Kazuyoshi

プロフィール
profile

1947年埼玉県秩父生まれ。長沢セツ・モードセミナーでイラストレーションを学ぶ。絵本『ねぎぼうずのあさたろう その１』(福音館書店)で第49回小学館児童出版文化賞、「小さなスズナ姫シリーズ」(偕成社)で第11回赤い鳥さしえ賞を受賞。『みずくみに』(小峰書店)で第20回日本絵本賞を受賞。

作品に「くろずみ小太郎旅日記シリーズ」(クレヨンハウス)、『ハのハの小天狗』(ほるぷ出版)、『桃子』『草之丞の話』(旬報社)、「ふようどのふよこちゃんシリーズ」(理論社)、『月見草の花嫁』(BL出版)など多数ある。

絵本の読み語り講演で、股旅姿で全国を渡り歩いている。

…… 選んだ本 ……
Book selection

『観察絵本 キンダーブック
11集5編 どうぶつのちえ』*

武井武雄 作・絵
発行：フレーベル館 /1956年

こどもの頃夢にまで出て来た武井武雄の少年!!
その夢の中の少年が丘の上から海に向かっておしっこを遠く飛ばしたので私もお寝しょをしてしまった!!
独特の画風に強く惹かれた!!

＊選書では「キンダーブックの武井武雄の世界」と回答していただきました。

『少年ケニヤ』

山川惣治 著
発行：角川書店 /1983年
全20巻

昭和30年代、毎朝届く新聞の連載戯画物語!!
毎回母が私を膝の上に乗せてくれ読んでくれた!!

02

植田 真
Ueda Makoto

プロフィール
profile

1973年、静岡県生まれ。画家。絵本や装画を多く手がける他、絵画制作、ライブペインティング、音楽など幅広く活動。『マーガレットとクリスマスのおくりもの』(あかね書房)で日本絵本賞受賞。

絵本に、『おやすみのあお』(佼成出版社)、『ぼくはかわです』(WAVE出版)、『りすとかえるとかぜのうた』『りすとかえるのあめのたび』(BL出版)。装画・挿絵に、『えのないえほん』(斉藤倫・作 講談社)、『りすのたんじょうび』(トーン・テレヘン・作 野坂悦子・訳 偕成社)、『チョコレートのおみやげ』(岡田淳・文 BL出版)など多数。

…… 選んだ本 ……
Book selection

『ガンピーさんのふなあそび』
ジョン・バーニンガム 作・絵 / みつよしなつや 訳
発行：ほるぷ出版 /2020年 [新版]

『よあけ』
ユリー・シュルヴィッツ 作・絵 / 瀬田貞二 訳
発行：福音館書店 /1977年

なにかを作り出そうとする時、どこか遠くて大きなものを目指して立ち往生してしまうことがある。
しかし、学生の頃から好きだった絵本を開いてみれば、そこに広がるのは遠い憧憬などではなく、いつか見た親しみのある景色なのである。
瑞々しくて眩しい夏の一日。透き通るような息を呑むほど美しく静謐な時間。
生きてきた中で自分は何に心を動かされたのか、そこに耳をすませば、僕の等身大の景色が見えてくるかもしれない。
そう思わせてくれる水辺を舞台にした2冊の絵本。

03

きくちちき

Kikuchi Chiki

プロフィール

profile

1975年北海道生まれ。絵本作家。2012年「しろねこくろねこ」(学研プラス)でデビュー。

2013年同作がブラチスラバ世界絵本原画展で金のりんご賞受賞。2019年同展で「もみじのてがみ」(小峰書店)が金牌受賞。2020年「しろとくろ」(講談社)が産経児童出版文化賞フジテレビ賞受賞。

ほかの作品に「もじもじこぶくん」(福音館書店)、「おひさまわらった」(JULA出版局)、「いろいろかえる」(偕成社)など。

選んだ本

Book selection

『おへそがえる・ごん』

赤羽末吉 作・絵
発行：福音館書店 /1986 年
全 3 巻

とにかく楽しいの一言。
今まで息子と読んだ絵本のなかで、1 番笑いながら読んだ作品です。
登場人物や物語もゆったりしていて心地いい。
ユーモア抜群でどんどん引き込まれ、頁をめくるのが楽しくなります。
全3部作すべてが本当に面白いです。

『どこへいったの、お月さま』

フランク・アッシュ 作・絵 / 山口文生 訳
発行：福音館書店 /1986 年

フランク・アッシュのクマくんシリーズはどれも絵や物語が可愛くて大好きです。
優しい気持ちになります。
ただ翻訳されてない絵本には、同じ作者とは思えないダークな作品もあって、振り幅が凄いんです。
日本語版がないのが残念です。

04

舘野 鴻
Tateno Hiroshi

プロフィール
profile

1968年横浜市に生まれる。故・熊田千佳慕に師事。演劇、現代美術、音楽活動を経て生物調査員となり、国内の野生生物全般に触れる。その傍ら教科書、図鑑などの生物画や景観図、解剖図などを手がけ、写真家久保秀一の助言を得て2005年より絵本製作を始める。

絵本に『しでむし』『がろあむし』(偕成社)、絵本原作に『あまがえるのかくれんぼ』(世界文化社)、連作短編に『ソロ沼のものがたり』(岩波書店)がある。

…… 選んだ本 ……
Book selection

『墓場鬼太郎』
水木しげる 著
発行：KADOKAWA/2006年
[貸本まんが復刻版]全6巻

水木しげるの描く世界はリアルだ。妖怪はいるかいないかといえばいないかもしれない。しかし、いてもおかしくはない。そう思わせるのはなぜか。ブリューゲルが好きだったというように偏執的な背景描写がその理由の一つだ。著者の直接経験による身体性と描写力は強力な説得力を持つ。

『忘れられた日本人』
宮本常一 著
発行：岩波書店/1984年

宮本常一の採集した辺境の日本人の話には残酷、悲惨、絶望がある。
人も虫と同じ様に無垢で潔く勇敢に生きていた。
私の、人に対する思いを変えた本。

05

中野真典

Nakano Masanori

プロフィール

profile

1975年兵庫県生まれ。画家、絵本作家。大阪芸術大学卒業。その後保育士となる。子どもたちと過ごした時間、シベリア鉄道でのチェコへの旅、ダンサーをはじめ、様々な表現者と寝食を共にした日々。

目の前のもの、そこにある現象を体を通して描く。

絵本に「おはなしトンネル」(イースト・プレス)「もういいかい」(BL出版)「かかしのしきしゃ」(理論社)「ゆめ」(講談社)、高山なおみと共著に「どもるどだっく」(ブロンズ新社)「それから それから」(リトルモア)など。

…… 選んだ本 ……

Book selection

『ミツ バルテュスによる四十枚の絵』

バルテュス 著 / 阿部良雄 訳
発行：河出書房新社 /2011 年

学生の頃、友人から誕生日にこの本をもらった。
黒一色で描かれた絵に、言葉はない。少年と猫(ミツ)の関係が、予感をはらみながら、絵が物語る。
その後、僕は捨て猫をひろい“ミツ”と名付けた。
死んだ今も、ミツは僕のなかに、いる気がする。

『貧者の宝』

モーリス・メーテルリンク 著 / 山崎剛 訳
発行：平河出版社 /1995 年

「青い鳥」の作者が簡素な言葉で僕の知りたかったことを教えてくれた一冊。
生活について、魂について、死について、孤独について…。
本は汚れ、黄ばんでしまっているが、僕の宝になっている。

o 6

降 矢 な な

Furiya Nana

プロフィール

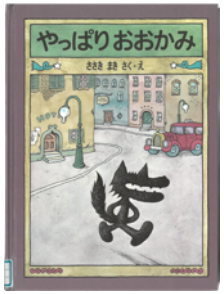
profile

1961年、東京都生まれ。スロヴァキア共和国ブラチスラヴァ美術大学で、ドゥシャン・カーライ教授に本の挿絵、石版画を学ぶ。

主な作品に『めっきらもっきらどおんどん』『ちょろりんのすてきなセーター』「やまんばのむすめまゆのおはなし」シリーズ(以上福音館書店)、「おれたちともだち」シリーズ(偕成社)、在住のスロヴァキア共和国での暮らしを基にした『ナミチカのきのこがり』(童心社)など。

…… 選んだ本 ……

Book selection



『やっぱり おおかみ』

佐々木マキ 作・絵
発行：福音館書店 /1973 年

「おおかみ」は、思春期の私に「自分は自分」と教えてくれた一冊。ささきまきの空気感は唯一無二。
『ぼくがとぶ』もおすすめ。

『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット 著
ルース・クリスマン・ガネット 絵 / 渡辺茂男 訳
発行：福音館書店 /1997 年 [ポケット版]

幼い頃、大好きだった「エルマー」。大人になり本の作り手になった今、「エルマー」は私にとって北極星のような存在だ。絵本作りの旅の途中、迷ったり気弱になった私に、高い空からゆるぎない方角を指示してくれる。お話の内容、アイデア、ユーモア。丁寧に描かれた白黒の挿絵は、親しみやすいけれど読者を子ども扱いしていない。

07

ミロコマチコ

mirocomachiko

プロフィール

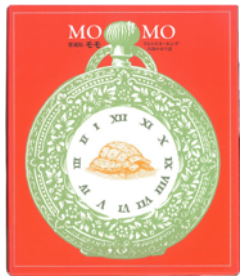
profile

画家・絵本作家。大阪府生まれ。いきものの姿を伸びやかに描き、国内外で個展を開催。絵本『オオカミがとぶひ』(イースト・プレス)で第18回日本絵本賞大賞を受賞。その他著書、受賞歴など多数。

現在、展覧会「いきものたちはわたしのかがみ」が全国美術館を巡回中。自然の動きに目を凝らし、耳を澄ませながら、探究を続けている。

..... 選んだ本 .....

Book selection



『モモ』

ミヒャエル・エンデ 著 / 大島かおり 訳
発行：岩波書店 /2001 年 [愛蔵版]

地元にやって来た人形劇の演目『モモ』を見て、原作を読みました。
モモは私の話をじっと聞き、児童書や絵本の世界へ誘ってくれました。
今でも旅に行く時、持って行く本に迷ったら、これ。いつでも大切なことを思い出させてくれます。

『兎の眼』

灰谷健次郎 著
発行：KADOKAWA/1998 年 [角川文庫]

『兎の眼』に登場する鉄三の存在が好きで、始めて飼った猫に同じ名前をつけました。鉄三はタカラモノを持っています。
猫もまた、それを教えてくれるような存在だったからです。

o 8

田 島 征 彦
Tajima Yukihiko

プロフィール
profile

1940年大阪に生まれる。幼少年期を高知県の山村で過ごし、1959年、京都市立美術大学に入学。
'74から丹波の山村で自給自足の生活。'76「祇園祭」、'78「じごくのそうべえ」この年から灰谷の影響で毎年のように沖縄を旅する。'83「あつおのぼうけん」。2000年灰谷さんの家を買って淡路島へ移住。
「ふしぎなともだち」2014年、「てっぽうをもったキジムナー」1996年、「やんばるの少年」2019年、「なきむしせいとく」2022年など。

…… 選んだ本 ……
Book selection

『兎の眼』
灰谷健次郎 著
発行：理論社 / 1979 年

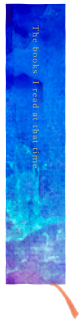
『太陽の子』
灰谷健次郎 著
発行：理論社 / 1980 年

絵本を出版するようになって、児童書を読むようになった。「兎の眼」に感動して、自分の子ども(小２、小６)に読んであげたら、自分が泣いてしまい読みつづけられなかった。
障がい児の見方(味方？)になる絵本作家をめざして「ふしぎなともだち」に結実し、「太陽の子」はぼくを沖縄へ導いてくれた。

09

しおたにまみこ

Shiotani Mamiko



プロフィール

profile

1987年千葉生まれ、埼玉育ち。女子美術大学工芸学科陶コース卒業。背景美術制作会社勤務を経て、絵本制作をはじめる。2014年「やねうらおばけ」で第15回ピンポイント絵本コンペ優秀賞受賞。

2018年『そらからきたこいし』で絵本作家としてデビュー。同作が第11回MOE絵本屋さん大賞新人賞第2位受賞。

作品に、『やねうらべやのおばけ』、『たまごのはなし』(ブラチスラバ世界絵本原画展金牌受賞)がある。

…… 選んだ本 ……

Book selection

『ありこのおつかい』

いしいももこ 作 / なかがわそうや 絵
発行：福音館書店 /1948 年

母に私がすきだった絵本はなにかあるか聞くと「ありこのおつかい」だと教えてくれました。
読んでもらった記憶もないし、どんなないようかも忘れていました。
なので、改めてよんでみたのですが、やはりすきでした。

『すてきな 三にんぐみ』

トミー・アンゲラー 作・絵 / 今江祥智 訳
発行：偕成社 /1969 年

私がまだ幼いころから母は近所のひとたちと「こどもぶんこ」ということをやっていました。
そこで、「すてきな3にんぐみ」の紙人形劇をやったのですが、そのときに歌っていたオリジナルのおんがく、黒と青と赤という仄暗さがなんとなく頭に残り、絵本といえば「すてきなさんにんぐみ」がまず思いうかびます。

…… 選んだ本 ……
Book selection

『どろんここぶた』

アーノルド・ローベル 作・絵 / 岸田衿子 訳
発行：文化出版局 /1971 年

こぶたがどろにずずずっとつかる、なんだかとても気持ちがよさそうです。
子供のときから、どろにつかってもそんなに気持ちよくはないだろうと思ってはいるのですが、絵本の中ではとくべつ気持ちがよさそうであこがれました。
それと、おばさんが掃除機でどろをすってしまうのにも惹かれます。

『三四郎』

夏目漱石 著
発行：新潮社 /1948 年 [新潮文庫]

以前の千円札に描かれた夏目漱石が少し父に似ていました。
そのせいか勝手に夏目漱石に対して親しみを感じていた高校生の私はまず三四郎を読みました。思っていたよりも読みやすく面白いと思い、三部作である「それから」「門」と読んでいきました。
今でも本を読むコトが苦手ではありますが、少し本に対する敷居を下げてくれた作品です。

『ゲド戦記』

アーシュラ・クローバー・ル＝グウィン 著
清水真砂子 訳 / 発行：角川書店 /1983 年
全 6 巻

ゲドの肌と髪は黒く、白人ではありません。登場人物のほとんどが有色人種です。
私は読む前、「魔法」「ファンタジー」という言葉から白人を思い浮かべていました。おそらく、そういった作品のほうが多いからだと思います。
読んでいた時には意識しませんでしたが、年々ゲドが有色人種だということの素晴らしさを感じます。
最終的にゲドが力を失うというのも、なんだか勇気づけられるようです。

…… Q&A ……

Q1. 図書館や図書室での思い出があれば教えてください。

アレルギー体質で、鼻がむずむずするので子供のころから図書館にはほとんど行きません。

Q2. これからどんな本をつくってみたいと考えていますか。

とくにありません。
ですが、自分に正直に作っていこうとは思っています。

© しおたにまみこ

あなたの、

あのとき読んだ、あの本は？

What is the book you read at that time ?

あのとき読んだ、あの本が vol.02

編集：庄子真汀（千葉市美術館）
デザイン：降矢恵里（千葉市美術館）
発行日：2022年11月12日
発行：千葉市美術館

The books I read at that time